

		番号	地域課題	ポイント	手立ての必要	手立て (対応策の検討)
高齢者の ニーズ		2-1	会話ができる仲間がない。	地域で受け入れてくれる場所や人員の確保	○	<ul style="list-style-type: none"> 傾聴ボランティア派遣 サロン内での人とのつなぎ役を作り、孤立を防ぐ。 ラジオ体操などに参加し顔見知りを作る。
		2-2	集いの場を知らない。また、出かける手段がない。	移動時の安全性の確保		<ul style="list-style-type: none"> 付き添いボランティア イベント開催時に周知、声掛けをしてもらう。当日一緒に出かけてもらう。
		2-3	一人暮らしで地域の交流がなく、頼る親族がない。	地域で受け入れてくれる場所や人員の確保	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に参加したり、散歩に出て顔見知りを作る。 気軽に相談できる体制を地域でつくる。 後見人につなげる支援 エンディングノート等を活用して本人の気持ちを知る。
		2-4	室内の片付けが出来ず、生活環境が悪化する。	早期発見ができる見守り体制づくり	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティアを派遣する。 気軽に相談できる体制を地域でつくる。
		2-5	地域で活躍できる場がわからない。	地域で受け入れてくれる場所の提供		<ul style="list-style-type: none"> まだできる部分を生かし、ボランティア活動に参加する。仲間作りにもつながる。
住民・地域の課題		2-6	認知症についての知識や理解不足。	地域住民への啓発	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や企業に広く理解していただく啓発活動を行う。 認サポ、オレンジスペースの拡大。
		2-7	孤立。相談支援先、見守り体制が不十分。	早期発見ができる見守り体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> 喫茶店やスーパーなどの身近な店で相談ができる環境作り。 近隣住民や包括へつなげる仕組みを作る。
		2-8	宅配スーパーの存在や利用方法が周知されていない。	買物支援		<ul style="list-style-type: none"> とくし丸や宅配スーパー、ネットスーパーの利用を援助する仕組みを作る。
社会資源の課題	介護	2-9	無償のボランティアがない。	金銭的な負担の心配がない支援		<ul style="list-style-type: none"> ボランティア募集や、ちょっとした空き時間で助けてくれる地域の協力者を募る。
		2-10	介護保険外の資源が少ない。	行政や民間サービスの介入	○	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ屋敷の片付けを行政が補助する仕組みづくり。(生活支援サービスの構築) ゴミを玄関先まで回収し、安否確認と共にゴミ回収をしてくれる仕組みづくり。
	医療	2-11	服薬状況や生活状況の情報共有	多職種連携	○	<ul style="list-style-type: none"> 介護職と医療職の関係作り。 本人が相談しやすい環境をつくる。
	住まい	2-12	段差の多い家が多い。	転倒予防のための提案		<ul style="list-style-type: none"> 転倒予防のため、住環境を整えるアドバイスを受ける機会をつくる。
支援者の課題	専門職の数、資質	2-13	介護サービス事業所が少なく人員も不足している。	人材確保		<ul style="list-style-type: none"> 民間企業でも参入できる仕組みをつくる。
	連携、ネットワーク	2-14	複数の病院や調剤薬局利用時の情報共有。	多職種連携		<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師から医師へ、薬の重複や、薬を減らす提案をする。
		2-15	適正な要介護度区分になっていない。	認定調査のしくみを理解し、適切な情報提供を行う。	○	<ul style="list-style-type: none"> 認定調査員に現状を正しく伝える仕組みづくり。 医師に家での様子を気軽に伝えることができる仕組みを作る。